



多発性骨髄腫における血清アルブミン定量のための BCG 法とアガロース蛋白質電気泳動法との比較

KEYWORDS// 多発性骨髄腫, 血清アルブミン定量, BCG 法, アガロース電気泳動法

多発性骨髄腫の国際病期分類システム (International Staging System ; ISS) は正確な血清アルブミン定量の必要性を高めている。汎用されている BCG 法とアガロースゲル蛋白質電気泳動法 (PEL 法) による血清アルブミン定量値には, しばしば不一致が生じ, 多発性骨髄腫の測定にはどちらの測定法を選択すべきであるかについて混乱がある。著者らは BCG 法, PEL 法および免疫比濁法により多発性骨髄腫を含む患者試料のアルブミン定量を実施し, アルブミン定量法の臨床的評価を行った。単クローン免疫グロブリンが 0~15 g/l 未満の血清では, BCG 法および PEL 法の結果は

免疫比濁法の結果と良く相関したが, PEL 法のメディアンは BCG 法よりも 8 g/l 低値であった。M 蛋白が大きい血清では, PEL 法は免疫比濁法および BCG 法との相関が低かったが, BCG 法は M 蛋白の存在に関係なく免疫比濁法と良く相関した。多発性骨髄腫における血清アルブミン定量は安価な BCG 法により実施できる。

(Snozek CLH, Saenger AK, Greipp PR, et al : Comparison of bromocresol green and agarose protein electrophoresis for quantitation of serum albumin in multiple myeloma. Clin Chem 53 : 1099-1103, 2007)

(埼玉県立大学短期大学部 鈴木優治)